双葉通信【第 237 回】（被災地を行く№24）“ふくしまの切り捨ては許さない”

2025 年 2 月 10 日　上田　勉

福島第 1 原発事故　支援学校、14 年ぶり双葉郡に　いわき避難の県立校、地域センター　楢葉で再開　新校舎で始業式「帰還の一助」期待

「東京電力福島第 1 原発事故に伴い富岡町から、いわき市に避難していた県立ふたば支援学校は 1 月 16 日、移転先となる楢葉町の新校舎で 3 学期の始業式を行い、14 年ぶりに双葉郡内で活動を再開した。小・中学部と高等部の計 30 人が同市や双葉郡から通う。【尾崎修二】

震災前は「富岡養護学校」の名称で、双葉郡を中心に知的障害のある子ら約 110 人が通っていた。2011 年の原発事故で休校し、12 年度にいわき市で授業を再開。17 年度からは小学部が同市平、中学・高等部が同市四倉町に分かれて活動していた。

避難指示解除が早く、いわき市からも近いことなどから楢葉町が移転先となった。新校舎に通うのは小学部 11 人、中学部 7 人、高等部 12 人。同校と同じく原発事故で富岡町からいわき市に移転した入所施設「東洋学園」の子が過半数で、いわき市在住が 5 人、双葉郡在住が 8 人。大半がスクールバスで通学する。教職員は 51 人。

16 日は真新しい 3 階建て校舎で始業式や授業があり、高等部 1 年の斉藤美羽さんは「緊張もしているけど楽しい。生徒会長を目指して頑張りたい」と話した。

伊藤秀之教頭は「児童生徒が新しい場所での学校生活に慣れるように努めたい。双葉郡に戻ってきたので、地域との連携や交流も充実させたい」と話す。地元の楢葉町立小などとの交流や共同学習も予定している。

県内の特別支援学校は校内に「地域支援センター」を設けており、同校のセンターも新校舎に移転した。双葉郡の保護者や公立小中学校、こども園、自治体などから支援が必要な子に関する相談に乗ったり、郡内の研修に教員を講師として派遣したりする。

公立学校で学びづらさを感じる子や発達障害の診断を受ける子は各地で増加傾向にある。同校は「教員らのノウハウを提供し、センターとしての機能も少しずつ発揮していきたい」としている。

福島県教育委員会は国の復興予算 42 億円をかけて新校舎を建てた。22 年時点では 64 人程度が通う見込みと説明しており、想定の半数での再開となったが、同校は「双葉郡での再開は帰還の一助となる効果もあると期待している」と説明する。実際、今回の楢葉への移転を機に避難先のいわき市から双葉郡に今後戻る世帯もいるという。

これで原発事故に伴い避難先で授業を続ける学校は双葉町の町立小中学校（いわき市）のみとなった。同町は町内で小中一貫校と認定こども園の 28 年度の開校・開園を目指している。」（「毎日新聞」　2025/1/19　地方版）

【福島県立ふたば支援学校（楢葉町)】(2024 年 12 月 19 日撮影)

【教室？―福島県立ふたば支援学校（楢葉町)】(2024 年 12 月 19 日撮影)】